

KOAは、「循環」「調和」「有限」「豊かさ」を経営理念として、
循環型地域社会のモデルづくりを目指しています。



「おてんとうさま」活動の概要

KOAグループでは、「お天道様に堂々と胸を張って報告することができる活動をしよう」という想いを込めて、1997年から「おてんとうさま」(ISO14001 環境マネジメントシステム) 作戦を展開しています。KOA及び国内グループ6社、海外グループ5社の合計12社29サイトがISO14001の登録を完了し、環境改善活動を行っています。

「KOAグループ環境委員会」を社会環境活動の中心に置き、グループ全体での環境活動強化を図っています。また、「エネルギー改善委員会」「環境担当者委員会」を下部組織とし、機能的な運営を行っています。

KOAグループでは、地球環境との調和を図り、地球と共に生きる豊かさを求めることが私たちの社会的責任と考えています。このことを実践する「おてんとうさま」の活動を通じて、より多様な業務で環境に調和した活動ができるように、ISO14001:2004年度版へ対応するとともに、環境方針を含む環境マニュアルを改訂し、新たな5つの環境指標により環境改善を継続的に進めていきます。

KOA株式会社 会社概要

- 本社所在地: 長野県伊那市大字伊那3672
- 創立: 1940年3月10日
- 資本金: 60億3300万円(東証・名証一部上場)
- 代表者: 代表取締役社長 向山孝一
- 従業員数: 1,043名(2005年3月末現在)
- 事業内容: 各種電子部品の設計開発・製造・販売
- 環境管理責任者: 取締役 深野香代子
- ISO14001認証番号: JQA-EM0155 (1998年4月～)
- 内容問い合わせ先: 経営管理IV総務センター環境グループ
【TEL: 0265-70-7176 (直通)】
【E-mail: gac-e@koanet.co.jp】
【URL: <http://www.koanet.co.jp>】

出発点

どうしたら地球と調和した生き方ができるのか。

理念

KOAIは信州伊那谷に生まれ、育まれてきた企業です。お百姓がお百姓として自らのふるさとで生きていけるようにとの願いで、創立しました。

電子部品の製造に携わりながらも、土と水とおてんとうさまのおつきあいのなかで学び、生きとし生けるもの一人として地球との間に信頼関係を築いていきたいと考えます。

社員一人一人が自分たちをとりまく水系の命の循環に関心をもち、「おてんとうさま」(環境マネジメントシステム)を自己責任のもと実践することで、わたしたちのふるさとに循環型社会のモデルを創造していきます。

方針

- 一、KOAIは、開発・製造・販売活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確にとらえ、「おてんとうさま」(環境マネジメントシステム)を構築し、「おてんとうさま」の継続的改善及び環境汚染の予防を図る。
- 一、KOAIの環境活動は、社会環境対応を「おてんとうさま」活動とし、製品環境対応を品質保証活動として展開する。
- 一、KOAIの環境側面に適用可能な法規制、KOAIが同意するその他の要求事項(お客様要求事項を含む)及び自主基準を順守し、環境マネジメントマニュアル・品質マニュアルを基に全社員が自然環境に配慮した行動をする。
- 一、本方針の理念に基づいて行動するため、環境に調和した業務や有限な資源の有効利用、環境負荷の少ない製品・工程、地球温暖化防止を追求し実現する環境改善活動を環境目的・目標の枠組みとして、毎年見直しをする。
- 一、環境内部監査を実施し、自主管理による「おてんとうさま」の維持向上に努める。
- 一、この環境方針は、KOAI及びKOAIグループにおいて、環境活動に携わる全ての人に周知し、環境意識の向上を図る。

平成17年4月1日

KOAI株式会社 社長 向山 孝一

おてんとうさま推進体制 ～製品環境、環境委員会の取り組み～

製品環境と社会環境を再定義した活動体制

KOAIグループでは、製品への有害物質含有を規制する欧州のELV指令・RoHS指令や各国の環境規制等が事業活動に与える影響が大きいと判断し、地球環境を考えた企業経営のために「製品環境」・「社会環境」を再定義し、活動体制を整えました。

<製品環境>

- ・国際規格(ISO/TS16949)
- ・製品環境法規制 (ELV、RoHS等、各国法規制)
- ・お客様の要求(品質、製品環境)

品質保証システム

KOAIがつくる製品に含有する環境負荷物質およびそれらを管理・削減する活動

<社会環境>

- ・国際規格(ISO14001)
- ・社会環境法規制 (各国の環境法規制)
- ・社会一般の環境保全要求 (お客様の社会環境要求)

環境マネジメントシステム

地球との間に信頼関係を構築し、循環型社会のモデルを創造していく

地球環境を考えた企業経営

社長:向山孝一

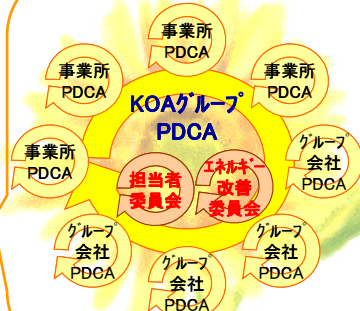
環境管理責任者
担当役員:深野香代子

内部監査員

KOAIグループ環境委員会
《通称:Sunflower committee》
【委員】
KOAI事業所責任者
KOAIグループ環境管理責任者

KOAI及びKOAIグループ12社29拠点

KOAIグループ環境委員会



KOAIグループ環境委員会の取り組み

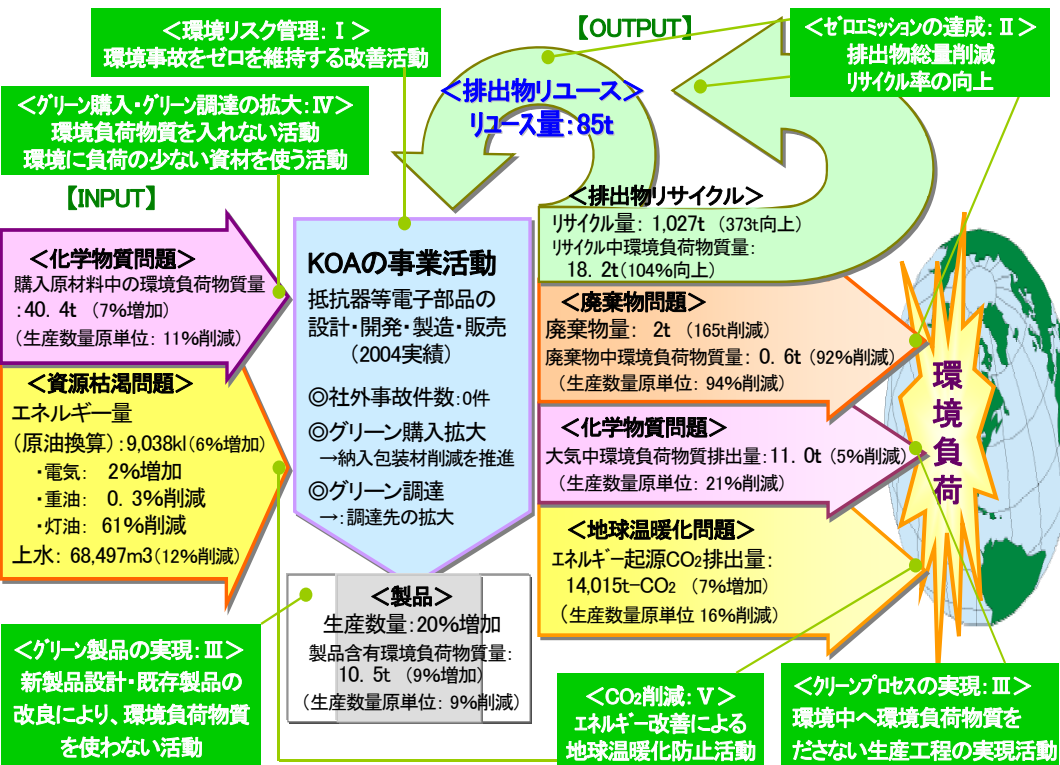
KOAIグループの環境活動を統括する「KOAIグループ環境委員会」では、特定のテーマを検討する小委員会を設置しています。この小委員会では目標の進捗管理、改善事例の水平展開、パトロールなどを行いグループでの横断的な取り組みを実現するとともに、グループの力を結集し、より大きな成果が出ることを狙って活動しています。

- ◆「環境担当者委員会」:「おてんとうさま」で取り組む環境課題全般、グループ目標達成をテーマとして活動。
- ◆「エネルギー改善委員会」:特に大きな課題と位置付ける地球温暖化防止へ向けたエネルギー改善活動をテーマとして活動。

環境負荷状況 ～KOAの環境負荷状況と、前年度との比較～

KOAのマテリアルフロー(物質循環)図と環境負荷毎の対策

＜2004年度実績、(カッコ)内%・tは、対2003年度比＞



KOA 2004年度環境負荷状況

＜化学物質＞: INPUTの購入原材料中から環境負荷物質を生産数量当たり 11%削減し、OUTPUTの大気中排出量からは、21%削減することができました。

＜資源枯渇・地球温暖化＞: INPUTのエネルギー量は原油換算で6%増加、ただしOUTPUTの生産数量当たりのCO₂排出量は、16%削減することができました。

＜廃棄物＞: 2003年度末に体制が整ったゼロエミッションが1年間維持されたことから、埋立・単純焼却される廃棄物排出量を99%削減することができました。

今年度から新たにリユースという区分を設け、納入包装材の通い箱化、オフィス用紙の循環利用に取り組み、85tのリユースを生み出すことができました。

【INPUT】: KOAの事業活動に投入される資源

【OUTPUT】: KOAの事業活動の結果、排出される物質

おてんとうさま作戦 (環境目的目標) の達成状況

AC	長期目標	目標値	評価	状況
I	環境改善活動の実施	①環境事故ゼロ: 事故ゼロのための事故予防改善達成 ②環境改善1件達成	◎	社外事故ゼロ件 *ただし、社内異常1件、クレム2件 処理済み
II	ゼロエミッションの達成	排出物(総量)原単位を03年度比、5%削減	×	生産数量当たりの総排出量、 対前年比2.8%悪化(内製化 進展により悪化)
III	環境負荷物質削減による ・グリーン製品 ・グリーンプロセスの実現	①対象物質の環境(大気・水・土壌・廃棄)中排出量削減(対前年比5%減)	◎	①生産数量当たりのVOC(揮発性有機溶剤)の大気中排出量: 21%削減
		②設計の仕組みづくりを完了	◎	②実施件数: 5/5達成 *製品環境の規定整備・発行
		③製品中の環境負荷物質削減	◎	③目標件数: 4/5達成
IV	グリーン購入・調達の拡大	①a納入包装材削減 bグリーン購入活動(文具除く)活動の拡大	◎	①ab目標件数: 36/39達成 *納入包装材の削減を大幅に進め、大口の納入先について、ほぼ完了
		グリーン調達の質/量を拡大する改善活動	◎	調達先グリーン調達監査実施: 7社実施(目標7社)
V	CO ₂ を2010年度に基準年度比6%削減	エネルギー起源CO ₂ を03年度比原単位で1.0%削減	◎	生産数量当たりのエネルギー起源CO ₂ 排出量、対前年比16%削減

次頁に詳細を記載

長期目標を05年度から変更

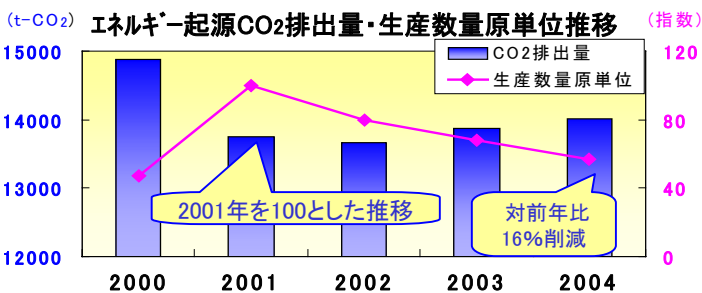
AC	2005年度目標値
I	環境影響の予防 ・環境事故ゼロ
II	環境に調和した業務の実現 ・環境影響を緩和する改善実施
III	有限な資源の有効活用 ①排出物総量原単位を04年度比1%減 ②包装材の削減を含むグリーン購入活動拡大
IV	環境負荷の少ない製品工程の実現 ①対象物質の環境中排出量原単位を04年度比3%削減 ②LCAを考慮した製品・工程设计・改良の実施 ③グリーン調達活動拡大
V	地球温暖化防止 ①エネルギー起源CO ₂ 排出量を04年度比5.3%削減 ②エネルギー起源CO ₂ 排出量を2010年度に1990年度比6%削減する計画と方法の決定を行う

◎: 100%達成、○: 70%以上達成、△: 50%以上達成、×: 50%未満の達成

おてんとうさま作戦の成果

～地球との信頼関係をより大きく～

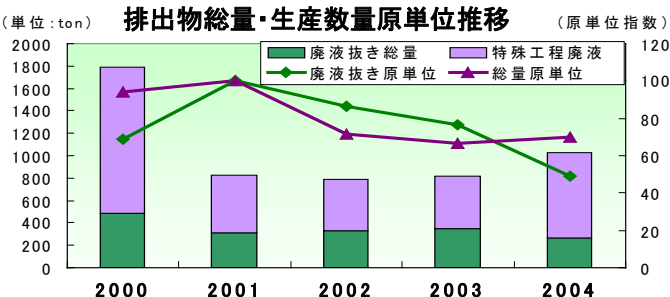
CO₂削減活動 : 生産数量当たりの排出量削減



エネルギー起源CO₂排出量を対前年比16%削減!

2003年度より活動開始した「電力削減プロジェクト」による圧縮空気を高効率で利用する改善を水平展開することで、電力削減に大きく貢献しました。他にも、エアコンなどユーティリティを中心とした改善事例をエネルギー改善委員会を通じて水平展開する活動や、燃料油より効率のよいエネルギーへ転換する活動など、数年来の活動実績が成果として表れています。

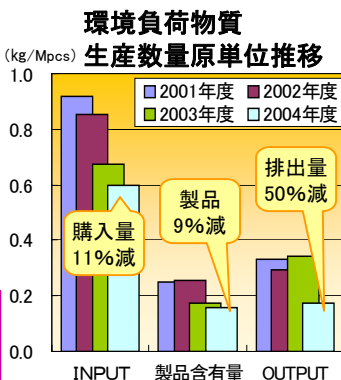
ゼロエミッション活動 : 総量削減の取り組みを本格化



リデュース・リユース推進による排出物の総量削減

2004年度からリデュース・リユースを推進することで総量削減する活動を全事業所で開始。特殊工程の内製化が進んだことにより増加した排出物を除けば、36%削減することができました。

クリーンプロセス・グリーン製品活動 : 環境負荷物質削減



クリーンプロセス活動

環境(廃棄物・大気)中への排出をリデュース・リユース・リサイクル活動やVOC(有機溶剤)使用方法改善により、生産数量当たり50%削減できました。

グリーン製品活動

欧州RoHS・ELV指令、お客様から含有を規制される環境負荷物質の管理を「製品環境」と位置付け、ISO/TS16949規格に準拠した品質システムに取り込み、整備しました。

コンプライアンス : 法令の遵守状況

法規違反: 0件

KOAでは、42の社会環境法規・要求事項を管理しています。各適用事業所でのチェック、内部監査、外部監査でのチェックを行いました。法規違反はありませんでした。ただし、工場近傍から低周波騒音に関するクレームが2件ありました。いずれも基準違反にはならない範囲でしたが、ご指摘を真摯に受け止め、先方様にご納得頂ける改善を行い解決致しました。

社外事故: 0件

社外へ影響する事故はありませんでしたが、弊社敷地内で、配送業者の車からオイルが漏洩する事故が1件ありました。緊急事態訓練を生かした素早い対応で、社外への影響を未然防止できました。

土壌状況確認 自主調査結果: 外部への汚染なし

汚染リスクを抱える事業所について自主調査を行ってまいりましたが、調査事業所のいずれからも、地下水による外部への汚染がないことを確認しました。また、全ての事業所について履歴調査を完了し、汚染確認が必要な事業所を対象に順次調査を継続する予定です。

地域社会とのおつきあい ～リサイクルシステム研究会との協同活動～

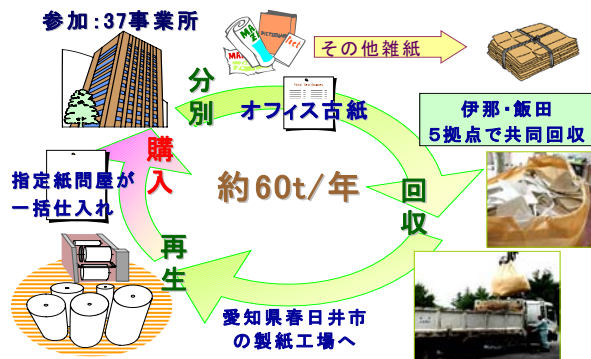
私たちの考える企業資産: 地域社会とのおつきあい

企業資産	内容	担当者
人づくり	KOAグループ表彰と職人	
「おてんとうさま」活動	企業活動に伴う環境負荷の低減	
森とのおつきあい	KOA森林塾	
水とのおつきあい	リサイクルシステム研究会 (財)伊那谷地域社会システム研究所	
土とのおつきあい	農的生活	
生態系の一員としての喜びと責務	リサイクルシステム研究会 (財)伊那谷地域社会システム研究所	

泳げる天竜川を目指す環境ピクニック

環境ピクニックは、毎年5月末天竜川流域を一斉にゴミ拾いするイベントです。1994年から開始し、今年で10回目の開催となりました。参加企業も年々増え、2004年度は、92事業所約4,000名が参加しました。また、ご家族揃っての参加を呼びかけており、多くのご家族にも参加して頂きました。

「INAコピー用紙循環システム」の運用開始



伊那谷地域の企業・団体と合同で、1998年から運用開始した「INAオフィス古紙回収システム」が、回収した古紙とそれを原料に再生したコピー用紙を循環し、再使用する試み「INAコピー用紙循環システム」を実現しました。循環型地域社会のモデルともなる事業です。

匠の里が第23回工場緑化推進全国大会 会長表彰を受賞

主力工場である匠の里(飯田市)が工場及び地域の景観整備・緑化への尽力を認められ、(財)日本緑化センターが主催する表彰を受賞しました。